

# 科学の知見無視 安心神話を流布

## 「放射線と健康に関するビデオ」放映

### 福井・高浜町

関西電力高浜原発3、4号機の再稼働に同意した福井県高浜町で、「放射線が及ぼす健康影響に関するビデオ番組」が有線放送で放映されています。放射線への不安をビデオ上映ぐらいで理解してもらおうなんて、とんでもないことです。光陽生協クリニック（福井市）の平野治和院長にビデオの問題点を聞きました。（福井県・山内巧）

ビデオは、町が「専門家」を動員して企画・制作し、災害時に住民が「冷静に行動」できるようにと流しているものですが、放射線「安心神話」をふりまく悪質なものと言わ



光陽生協クリニック  
平野治和院長に聞く

るをえません。

### 調査向上したのに

冒頭から、100μSv以下の被ばくは「たいしたことない」「人体への影響が確認されていない」などと説明されています。しかし、これは、放射線の被ばく線量と人体影響には、しきい値がないと国際機関に認知されていることが無視されています。

100μSv以下の低線量被ばくについては、疫学調査に基づき、発がんリスクを肯定する欧米の論文が増えています。米国防務安全衛生研究所は、発がんリスクを示す最低線量が1970年代には400μSvだったのが、90年代には100μSv、2010年には50μSvになったと述べています。世界的に調査が量・質とも向上していることを示すものです。10〜20μSvといった低線量のCTスキャンや、自然放射線の被ばくによる健康

影響も国際的な知見として明らかになれつつあります。

ビデオはこうした成果もまったく無視しています。

また、ビデオでは「チェルノブイリ事故と違い福島原発事故では子どもの甲状腺がんを増やす被ばく量を超えていない」としています。しかし、福島の子どもの甲状腺被ばく線量は測定数も限られ、初期放射性ヨウ素の拡散動態もデータが十分ありません。1順目の調査のデータだけで、甲状腺がんは増えないと断言するのは非科学的です。継続されていく今後の調査結果に対する科学者としての慎重な態度が欠けています。

### がんの予防を否定

ビデオが、放射線被ばく防護策を「花粉症の対策法で対応できる」としているのには驚きました。安定ヨウ素剤についても「過度の期待を持たず行政の指示に従った対応でよい」「ものすごい匂いで子どもは飲めない」というのは、「ヨウ素剤は不用」といっていることと同じで、甲状腺がん予防を否定する論調です。

このビデオを、福島県民が見たら、一体どのように思うでしょうか。